



12月定例会

今定例会では、新型コロナウイルス感染症対策に加え原油価格・物価高騰対策として中小企業や一般家庭への補助事業、鳥インフルエンザの発生を受けた養鶏農家への支援策に要する経費などについて活発に議論を交わしました。

十二月定例会は12月6日に開会、十六日間の審議を経て21日に閉会しました。今定例会では2022年度一般会計補正予算案を含む知事提出議案70件が原案通り可決、追加提案の人事案8件に同意、決算5件を認定しました。また議員提出議案については、「食料安全保障の強化を求める意見書」など

補正予算約503億円

を含む15件を可決しております。補正予算の主なものとしては、肥料や配合飼料価格高騰の影響を受けている生産者への支援、小規模事業者・中小企業等の経営コスト削減への支援、光熱費などが増加している医療機関や薬局等への支援、生活路線バス事業者への支援、プレミアム付き電子商品券の追加販売、新型コロナウイルス感染症と季節性インフルエンザの同時流行に備えた支援体制強化、入院医療機関における設備整備支援に要する経費などになります。

12月4日には自身通算10回目となる一般質問に立ち、内堀知事への質問を含む13の項目について関係当局から答弁を受け、県政進展に必要な施策を積極的に提案しました。

自動車関連税制に関する意見書を国に提出しました

昨年12月14日、政府与党は2026年度税制改正を視野に、自動車関連税制を見直す方向で検討に入りました。

それに先立って10月26日に開催された政府の税制調査会において「走行距離税(または道路利用税)の導入」が提案されたことを受け、私は福島県議会自由民主党議員会の政調会に対して意見書を国に提出するよう求め、矢吹貢一政調会長の了承を得て議案の作成に着手しました。我が会派の総務部会に上程した原案は変更を加えられることなく、12月定例会に提案され、全会派一致を以て可決いたしました。

このように、国では様々な事業費に当てるために必要な財源確保に向けて、増税も加味した議論が行われます。しかしながら、地下鉄などの交通インフラが整備された首都圏と異なり、地方生活者の足として欠かせない自動車に関する新たな負担は絶対に避けなければなりません。

与党である自由民主党所属のいち地方議員であることも、これからは会津の精神「ならぬことは、ならぬ」の信念を持ちながら、皆さま方の代弁者として言うべきことに対してはしっかりと声を上げて参ります。なお可決した意見書の内容(要約)は次の通りです。

「自動車に関する税制の在り方の適切な検討を求める意見書」

① 現行の自動車税、軽自動車税及び自動車重量税、更には環境性能割も含めた抜本的な見直しの議論を進め、新たな負担が生じたり、税の公平性が損なわれることがないよう適切な制度を設計すること。

② 走行距離に応じた課金する高速道路の通行利用料については既に走行距離税の意味合いを持つことから、二重の負担とならないよう公共交通機関の脆弱な地方高速道路の無料化または低料金への改定も視野に議論をすること。

③ 税制調査会における自動車に関する税制の議論に際しては、地方の声に真摯に向き合い、改正あるいは制度導入にあたっては地方の理解を十分に得ること。

新年のごあいさつ

令和五年、謹んで新春のお慶びを申し上げます。皆様にとって輝かしい一年となりますよう、心からお祈り致します。

さて、昨年は長引くコロナ禍に加え、ロシアによるウクライナ侵攻が国際情勢に深刻な影を落とし、燃料価格・物価高騰を引き起こしました。グローバル経済の現代社会においてその余波は我々の地方経済にも大きな影響を与えております。

そんななか昨年10月、JR只見線が11年ぶりに全線再開通を果たし、復旧を心待ちにしていた全国の鉄道ファンはもとより、奥会津の絶景に魅せられた多くの観光客が沿線の景勝地を訪れる様子は、明るい話題とともに我々に希望を与えました。

逆境を跳ね除けて復活した只見線のように、力強く未来を切り拓けるよう私も精一杯頑張る所存ですので、本年も変わらぬご支援とご指導を賜りますよう宜しくお願い申し上げます。

福島県議会議員 佐藤義憲



その他の活動報告

ふくしま自民党青年学生部合同研修会

昨年11月18日、顧問(前青年局長)という立場で自民党青年局学生部合同研修会に同行し、「台北駐日経済文化代表処」に訪問しました。1972年の日中国交樹立によって台湾と日本との国交は断絶していますが、我々自民党青年局には、長年台湾との交流が続けてきた経緯があります。その歴史は、日中国交正常化の機運が高ま

りつつあった1967年に遡り、台湾との関係維持を模索する当時の海部俊樹青年局長と蔣経国救国団主任との間で、お互いを窓口として青年交流を進めることで合意したことに始まります。

いまなお国家間の正式な交流はないものの、こうした地道な活動が身を結び、11年前のあの東日本大震災の時にはどの国よりもいち早く支援を表明、救済物資のほか200億円という多額の義援金に加え、支援ボランティアの派遣、さらに復興途上の東北地方に最初に旅行客を送ってくれたのも台湾です。

今回の謝長廷代表、蔡明耀副代表との面会では、震災当時の支援に対して改めて感謝の意を伝えるとともに、台湾国内における風評払拭への協力を求め、さらに今後も両国の発展のために、この関係を良好なものにしていくと確認し合うことができました。

ロボット・航空宇宙フェスタふくしま2022

11月末、郡山市で「ロボット・航空宇宙フェスタふくしま2022」が開催されました。



福島県は、今後成長が見込めるロボット・航空宇宙関連産業の集積と振興に取り組んでおり、毎年開催しているこのフェスタは、関連企業同士のマッチングはもとより、県民や次世代を担う子ども達に本県の取り組みや最先端の科学技術に関心を持ってもらうというイベントとなっています。

この日は、日本人宇宙飛行士の第一人者である野口聡二さんのスペシャルトークショーもあり、会場は大変な盛り上がりでした。

令和5年度政府予算対策要望活動

コロナ禍で3年ぶりの開催となる自民党福島県連の政府予算要望活動は11月30日に実施いたしました。

私は商労文教部会長として、商工団体の皆様方とともに経済産業省を訪ね、里見隆治大臣政務官に対して要望内容を説明して参りました。

こうした地道な活動により、本県の復興や産業振興に必要な予算の獲得を実現しております。

第1回 會津ジュニアブレイヤーズカップ

11月26日、開会式でご挨拶をさせて頂きました。

會津Jr. ブレイザーズは、新日鐵鋼でバレーボール選手として活躍されていた小野章三さんが総監督を務めております。

試合前には、現役のトップアスリートによる指導を受ける機会があり、参加していた子ども達にとっては普段体験できない経験とともに忘れられない思い出となった事でしょう。

今後の主な予定

- 【1月13日】 政務調査会
- 【14日】 県行政書士会 新年賀詞交歓会
- 【16日】 政務調査会
- 【17日】 会津地域教育・学術振興財団設立30周年記念式典
- 【21日】 おはた匠市議 新春の集い
- 【24〜26日】 常任委員会員外調査
- 【27日】 あいづ商工会 新春交歓会
- 【27日】 県看護連盟 新年交流会
- (1月4日現在)

編集後記

昨年の漢字は「戦」。ロシアのウクライナ侵攻により、「戦」争の恐ろしさを感じた一年であり、円安・物価高による生活面での「戦」い、スポーツでの熱「戦」・挑「戦」も注目されたことが選定理由だという。

実はこの「戦」という漢字は2001年にも選ばれている。この年は米国同時多発テロ事件が勃発、イチローの挑「戦」、国内ではリストラや狂牛病との「戦」いなどがあった。さて今年はどうなるだろうか？

「戦」いの後には、文字通り平らに「和」む日常に戻ることを望みたいものだが、我々政治家にとっては統一地方選を控えた年であり、自らの政治理念に基づいたこの四年間の行動への審判を受けるという意味においては、自分自身に向き合っている「戦」う年でもある。